

ふくおかの経済

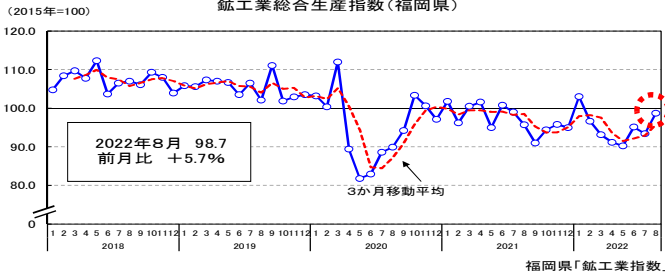
令和4年10月号



生産

持ち直しの動きがみられる。

8月の生産指数は、化学工業などの上昇により2か月ぶりに前月を上回りました。

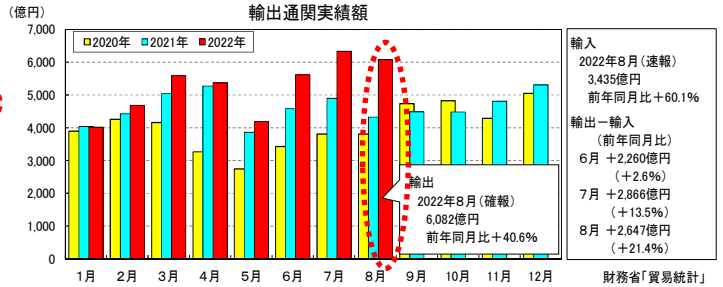


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

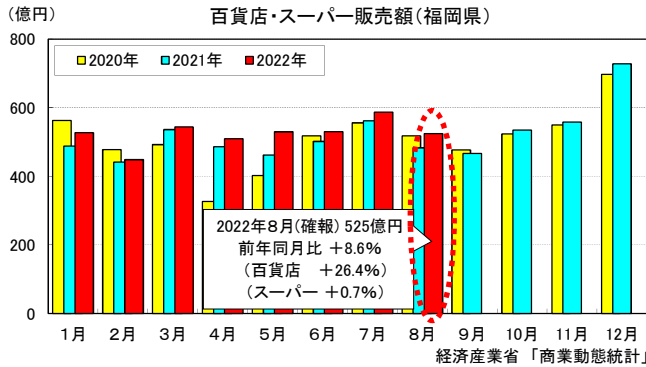
8月の輸出額は、前年同月比+40.6%、輸入額は同+60.1%といずれも前年同月を上回りました。



消費

緩やかに持ち直している。

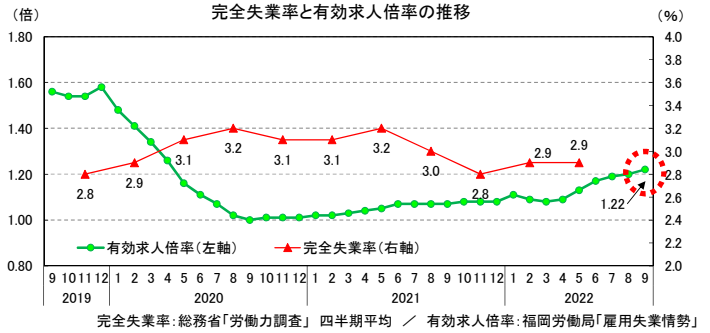
8月の百貨店・スーパー販売額は、11か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、緩やかに改善しているものの、一部に厳しさがみられる。

9月の有効求人倍率は1.22倍で、前月から0.02ポイント上昇しました。



「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

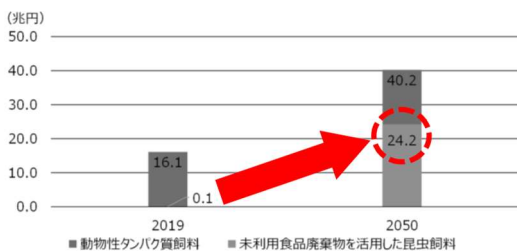
今月のトピック 昆虫が持つポテンシャルについて ~医療・食糧問題分野への応用の可能性~

○近年、昆虫が持つポテンシャルが注目されています。昆虫は人為的に増殖がコントロールでき、必要量を安価に供給できる可能性があり、新たな動物性タンパク質として研究されています。世界の動物性タンパク質飼料市場は、2019年に16.1兆円だったものが、2050年までに40.2兆円までに拡大することが予測され、そのうち、昆虫飼料市場は0.1兆円から24.2兆円まで拡大することが予測されています(図表1)。

○医療面においても昆虫の活用が進んでいます。県内では、九州大学発のベンチャー企業、KAICO株式会社から蚕からタンパク質を生成し、組み換えタンパクワクチンの生産を可能にしています(図表2)。また、蚕の蛹による経口ワクチンについても開発を行っており、人間以外にも家畜に経口でワクチン接種を行うことを目指しています。

○昆虫産業は、環境負荷低減や感染症予防対策といった観点から有効であり、農林水産、保健医療他、様々な分野で活用できる可能性がありそうです。

図表1 世界の動物性タンパク質飼料市場



出所:農林水産省「フードテックに係る市場調査」

図表2 蚕を用いた組み換えタンパクワクチンの生産



出所:産学官連携ジャーナル 2022年10月号「蚕からタンパク質を生み出す九州大学発 スタートアップKAICOの挑戦」